

札幌米国総領事館から広報文化外交担当領事の ボウ・ミラー領事が訪問されました。

4月12日(火)午後4時半過ぎに、ボウ・ミラー札幌米国領事と広報文化交流専門官の多賀谷真貴さんが、遺愛に訪問してくださいました。

遺愛がアメリカの宣教師によって建てられた学校であり、遺愛創設に関わったMCハリス氏が米国領事を兼任していたこともあり、今までも歴代の多くの米国領事さんが遺愛に表敬訪問して下さっています。

ボウ・ミラー領事は、ミシガン州北部出身で、幼少期に保護者(大学教授)の仕事の関係で東京に移住。以後日本での在住期間は20年近くになるそうです。米国国務省本省の民主主義・人権・労働局で中国を担当し、韓国：ソウルの米国大使館で広報文化外交官、インド：ムンバイ米国総領事館で領事、ベトナム：ハノイの米国大使館で報道官として勤務していました。札幌には昨年6月に着任しました。ご家族はニュージーランド出身の妻と娘2人です。まだまだコロナで留学は難しいですが、今後に向けて米国に留学する学生を増やしたいという願いから遺愛に来たそうです。



お話によると札幌米国総領事館でも、函館の遺愛生の積極的な活動に注目しているとのこと。とても嬉しいことです。特に全国的に有名な「外国客船通訳ボランティア・おもてなし」にはとても関心をもっていて、その内容について詳しく話を聞いて下さいました。

また、同行した多賀谷専門官は、札幌御出身で20歳の時に米国の大学に留学し、卒業後、国連のユニセフで勤められ、アフリカ、中近東などでお仕事をされ、現在は、札幌米国総領事館に勤務されています。お二人には、遺愛の生徒の皆さんの前で、今までの豊かなご経験から考えていることをぜひお話していただきたいという願いをもちました。

2022年4月15日(金)